



AUE News



2013年8月1日

第 66 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

目次

● 行事予定(8月1-31日)

● トピックス

- ・アカデミックカフェ
- ・ランチコンサート
- ・キャンパスクリーンデイ 2013
- ・附属特別支援学校作業実習棟が国の登録有形文化財に
- ・トヨタ車体の障害児交流ボランティアに学生が参加
- ・「夢ナビライブ 2013」に本学参加
- ・第 84 回天文台一般公開
- ・混声合唱団演奏会

・ インターナショナルナイト 2013

- ・鈴木淳司教育再生実行本部副本部長が来学
- ・ダンス部が全国大会出場作品お披露目会
- ・オープンキャンパス 2013
- ・ガラス作品展

● 愛教人インタビュー～松本昭彦教授が「第 60 回全日肖展」衆議院議長賞受賞

● お知らせ・報告・投稿

- ・平成 26 年度派遣留学説明会
- ・大学見学に知多東高校が来学
- ・催しもの案内

行事予定(8/1-31)

- 5 日(月) 経営協議会 (14:00～ 名鉄グランドホテル)
顧問会議と経営協議会の合同会議 (15:30～ 名鉄グランドホテル)
- 6 日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 7 日(水) 大学改革推進委員会 (15:30～ 第三会議室)
- 8 日(木) 共通科目専門委員会 (16:00～ 第三会議室)
- 12 日(月) 夏季一斉休業 (16 日まで)

トピックス

アカデミックカフェ(7/16)

本学教員の講演による地域貢献事業、第 6 回アカデミックカフェが 7 月 16 日(火)午後 5 時半から、本学第 5 会議室で開催されました。今回の講師は渡邊幹男教授(理科教育)で演題は「新種発見!ナガバノイシモチソウの不思議」。豊明市などの湿地に自生する 1 年生食虫植物で絶滅危惧種のナガバノイシモチソウが固有種であることを遺伝子研究で明らかにしたもので、研究の経緯などを語り、環境保全活動に関心のある市民ら約 50 人が参加。会場には花の現物も置かれ、興味深げに見聴きしていました。



赤い花で現存しているのは豊明、豊橋両市だけで、豊明市と白い花の武豊町のものは愛知県の天然記念物に指定され、保護されているが、渡邊教授は、これまで赤花と白花は大きな違いはないとされてきたが、遺伝的に大きく異なることがわかったことなどをスライドを使いながら詳しく説明。



その後の研究で、日本の白花系統は独立種と判断され、カンボジアの赤花、台湾の白花も種子などを調べた結果、遺伝的に日本のものと異なることを突き止め、赤花の学名を豊明にちなんで「ドロセラ トヨアケシス」とし、学会発表することとしたと述べました。

受講者からは「どのように種を保存しているのか」「自生地を耕作して花が咲くと言うが、地中の種は何年前のものか」「イシモチのいわれは」などの質問や保全協力者の話が相次ぎ、渡邊教授は「雨などで細い根が浮くと枯れてしまう。発芽させ長く持たせるよう、管理している。種子は 10 年前のものでも発芽したケースがある。石を持ち上げるくらいの粘り気があるのでこの名がある」などと答え、予定時間を過ぎて午後 7 時 10 分、好評のうちに終了しました。



ランチコンサート(7/17)

音楽選修・専攻の 2、3 年生による「ランチタイムコンサート」が 7 月 17 日（水）午後零時半から、附属図書館のアイ♥スペースで開催されました。



同コンサートは季節ごとに行う恒例イベント。今回は 2、3 年生が出演。曲は、2 年生の混声合唱で「COSMOS」、男声での「Swing Low, Sweet Chariot」、本学の橋本剛准教授作の「いま」、3 年生による「瑠璃色の地球」、全員参加の「JUBILATE DEO 神をほめたたえよ」など計 6 曲。いずれも、4 月から授業で練習を重ねてきた楽曲で、その成果を観客の前で発表しました。

客席は、教職員、在学生のほか、大学見学に訪れた高校生などで満席となり、立ち見もでる盛況ぶり。外の暑さを忘れさせるような、さわやかな歌声が会場に響きわたりました。

指導にあたった中川洋子特別教授は「得意でないものもあったと思いますが、とてもまとまっていたよかったです。一つのものにまとめ上げようと学生たちが努力したからですね」と笑顔で話していました。



キャンパスクリーンデイ(7/17)

キャンパス環境美化のための学内一斉清掃「キャンパスクリーンデイ」が 7 月 17 日（水）午後に行われました。

学生、教職員が手分けして、大学構内のごみや、側溝の落ち葉を収集、花壇の草抜き、放置されていた自転車の整理に当たりました。夏の暑さが厳しい昼下がりでしたが、7 月 27、28



日にはオープンキャンパスを控えていることもあり、来場する高校生たちをきれいなキャンパスにして迎えたいと、参加者は奮闘。参加人数も 1,218 人と、2006 年のキャンパスクリーンデイ実施以来最多となりました。

約 1 時間の作業で集まったのは、可燃ごみが 90 袋に 225 袋、不燃ごみが同 138 袋、草・枯れ木が 120 袋に 61

袋、粗大ごみがコンテナ1台分と、こちらも過去最多。暑さの中での作業とあって熱中症などが心配されましたが、この日は体調を崩す人もなく、無事に終え、すっきりときれいなキャンパスとなりました。

特別支援学校作業実習棟が国の登録有形文化財に(7/19)

本学附属特別支援学校の作業実習棟が、「旧愛知県岡崎師範学校武道場」として、7月19日(金)に開催された国の文化審議会において、登録有形文化財として登録するよう文部科学大臣へ答申されました。今後官報告示を経て、正式に登録(岡崎市では7件目)されます。

この武道場は、旧愛知県岡崎師範学校時代の、大正15年(1926年)に建てられたもので、鉄筋コンクリート造平屋建、鋼板瓦葺、建築面積427㎡です。



本件は、家政教育講座の小川正光特別教授(建築学)が、学長裁量経費をはじめとする各種助成を有効に活用された長年の研究成果を基に、2011年度の附属特別支援学校長着任後から、特別支援学校関係者、大学関係者及び岡崎市関係機関へ働きかけるなど、歴史ある重要な建物史料としての保存に尽力され、今回その努力が結実したものです。

一般への公開説明会は、7月27日(土)に岡崎市主催で行われました。

なお、日常的な一般公開は、学校では児童等の授業に支障が生じるため行われませんが、今後、岡崎市と調整を図り、可能な範囲で随時公開する予定です。(附属学校課長 兵頭利和)

トヨタ車体障害児交流ボランティアに学生が参加(7/20、27)

トヨタ車体株式会社OBの方が営む農園(知立市上重原町)で、障害のある施設の子どもたちとブルーベリー狩りを楽しむイベントが7月20日(土)、27日(土)行われ、支援学生ボランティアとして、本学からは、3人(初等理科3年 安藤太優さん、初等国語3年 佐野めぐみさん、現代学芸2年 村瀬友啓さん)の学生が計2回、参加しました。



当日は、愛知淑徳大学からも学生が3人参加し、交流を深め、刈谷市と知立市の社会福祉協議会とトヨタ車体TABふれあいクラブの協力の下、計24人のスタッフが参加しました。

20日は、「知立手をつなぐ育成会」の施設から小・中学校の身体・知的障害の子どもと保護者の計7組14人を招いて、農園の中のブルーベリー摘み体験をスタッフのサポートで行いました。体験後、近くの知立市文化センター内の研修室へ移動し、子どもたちは収穫したブルーベリーを題材にお絵かきをし、学生は思い出作りをサポートしました。



27日は、特定非営利活動法人「くるくる」の施設から小・中・高校の障害がある子どもと施設職員の計6組12人を招き、農園の中のブルーベリー摘みを体験。体験後、少し離れたトヨタ車体刈谷研修所へマイクロバスで移動し、収穫したブルーベリーの実の大きさや全部の重さを計測したり、収穫した数量を競うゲームやブルーベリーで作ったジャムとその他スイカ・キーウィ等のフルーツを試食しました。子どもたちは大変喜び、本学学生らボランティアスタッフも一緒に楽しみながら2日間全日程を無事に終えることができました。

終了後、主催者側のトヨタ車体担当者は「愛教大学生の皆さんは、施設の子どもの保護者・職員、他のスタッフからも本当に慕われ、とても好感を持たれていました。次回も、ぜひ、お願いします」と話していました。（学生支援課課外教育担当係 亀山重人）

「夢ナビライブ 2013」に本学参加(7/20)

高校生向けの進学相談会「夢ナビライブ 2013」（フロムページ主催）が7月20日（土）、名古屋市港区のポートメッセなごやで開かれ、本学も出展し、大学説明や講義ライブに約7,500人余の高校生が詰めかけました。



今年で3年目。会場には開始時間の午前10時ごろから、制服姿の高校生や保護者が続々と来場。本学の大学説明会では、大学紹介DVDを上映した後、都築繁幸理事（学生・連携担当）が大学の特徴を「大学案内」のパンフレットを使って紹介。「教育現場での問題が報道されていますが、教員は魅力的な職業です。本学ではしっかり学生を支援していますので、先生になりたい人、先生になろうかと迷っている人、ぜひ入学し

てください」などとアピールしました。

大学の講義を模擬体験できる「講義ライブ」では、幼児教育の林牧子准教授が「人間関係に影響をあたえるアタッチメントとは」、理科教育



の戸田茂教授が「南極大陸から地球内部構造を探る」のタイトルで、それぞれ30分ずつ講義。専門分野の話と同時に「自分のやりたい学問について、いろいろな情報を収集して感受性を豊かにしてください」などと進路選択へのアドバイスも盛り込んで、高校



生たちを激励しました。

個別ブースでは入試課の職員が対応。選修・専攻・コースの特徴や受験科目や配点など入試に関する相談や、クラブ・サークルなど学生生活に関する質問など、一人ひとりに丁寧に説明。終了時刻の午後5時半近くまで相談者が途切れることなく、対応に追われていました。



第84回天文台一般公開(7/20)



本学天文台の第84回一般公開が7月20日（土）午後6時から、自然科学棟の天文台などで行われ、26人が参加しました。

天文ミニ講座は「探査機がとらえた衛星・小惑星の素顔」と題して、澤武文特別教授が担当。太陽系の天体の中でも非常に小さな小惑星にスポットを当て、木星の四つのガリレオ衛星、土星近くのタイタンなどを、

探査機によってとらえた鮮明な画面を紹介しながら、衛星や小惑星について解説しました。

観望会は、土星と月を観測。月は月齢が12で満月に近かったため、クレーターの見え方はいま一つでしたが、それでもコペルニクスクレーターと、その縁に広がるクレーター群は見応え十分でした。土星では輪の中の黒い筋状に見えるカッシーニの空隙や、衛星タイタンも見ることができました。また、澤研究室の学生や卒業生の解説による3D映像上映会も3回行われ、参加者は「宇宙の旅」を楽しんでいる様子でした。





7月20日は人類が初めて月に足を下ろした記念日とあって、会場の入り口のホワイトボードには学生たちが記念日にちなんだ落書きをするなど、宇宙への興味を誘うムードもあり、参加者同士の和やかな話の輪もあちこちで広がっていました。

混声合唱団演奏会(7/22)

混声合唱団による演奏会が7月22日(月)のランチタイムに附属図書館アイ♥スペースで行われました。

同合唱団が前期の練習の成果を学内で披露しようと、この時期に開催。この日は1年～4年までの45人が参加して、「愛知教育大学学生歌」「旅立ちの時」「よろこびが集まったよりも」「ジュピター」「波へ」の5曲を、混声、男声、女声で発表。お昼時とあって、多くのギャラリーが訪れて楽しげに耳を傾けました。



指揮者を務めた野川雅基さん(初等理科3年)は、「3週間前から練習をしてきましたが、当日は発声練習なしで本番だったので音程が微妙。それでも皆いい表情で歌えたので、その雰囲気伝わったのではないのでしょうか」と話しました。

同合唱団は毎年3月に1年の集大成となる定期演奏会を開催しており、来年3月にも予定しています。

インターナショナルナイト 2013(7/24)

国際交流センター主催の事業で、国際交流ボランティア学生(留学生との交流や留學生活の支援などを目的に、同センターが募集する日本人学生)の企画による外国人留学生との交流イベント、「インターナショナルナイト2013」が7月24日(水)午後5時から、本学国際交流会館で開催されました。このイベントは、日本の文化を紹介し、体験を通じて互いの交流を深めることを目的に毎年実施しています。



当日は、朝から断続的に雨が降り、開催が危うい状況でしたが、留学生たちの強い希望により、小雨が降る中、午後1時から竹を切り出し、流しそうめんの台の作成を始めました。彼らの思いが通じたのか、次第に天気は回復して、台を組み立てる頃には晴れ間も見られるようになりました。



大会本番には、準備に参加できなかった学生や、宮川秀俊国際交流センター長をはじめとする教職員を含む約40人が参加しました。宮川センター長のあいさつから始まり、前期で帰国する5人の特別聴講生が紹介された後、流しそうめん、手巻き寿司、すいか割り、かき氷作りを行いました。日本の風物詩である流しそうめンを体験した留学生たちは、とても興奮した様子で流れてくるそうめンを箸で掴もうと必死に追いかけていました。留学生と日本人ボランティア学生の楽しそうな会話や笑い声が聞こえ、友好が広がる有意義な1日となりました。

国際交流センターホームページには、インターナショナルナイトの写真を多数掲載しています。ぜひご覧ください。



鈴木淳司教育再生実行本部副本部長が来学(7/25)

自民党教育再生実行本部副本部長の鈴木淳司衆議院議員(写真=前列右)が7月25日(木)、本学を訪れ、松田正久学長らと学長室で懇談しました。学長が1月に同議員事務所を訪れた際に「ぜひ本学にも足を運んでほしい」と話したのを受けて、この日の議員来学となりました。

懇談には松本賢議員秘書、本学側からは折出健二理事、岩崎公弥理事、白石薫二理事も出席して、学校現場の状況、教員養成のあり方などについて意見交換しました。

鈴木議員は教育再生実行本部の第2次提言を踏まえて教員養成の課題や大学入試改革などを説明し、学長らの質問に答えました。親族に本学卒業生や教員がいるという議員は、学校視察などの意義を強調した上で「現場の生の声を、また聞かせてほしい」と語り、学長も大学運営への理解、協力をお願いしました。

懇談終了後、学長が議員を案内。附属図書館、学生サポートセンターなど見て回った議員は「愛教大は初めてだが、来てよかった」と感想を語っていました。(法人企画部長 中原道文)



ダンス部が全国大会出場作品お披露目会(7/26)

本学ダンス部が出場する「第26回全国高校・大学ダンスフェスティバル神戸」(8月7日(水)～10日(土))を前に、出場作品のお披露目会が7月26日(金)午後5時半から第二体育館で行われました。

披露されたのは創作ダンスの2演目。最初は創作コンクール部門に出品する「mother～映し出される姿～」。母親の娘への愛が、やがて娘の自由を奪っていく、そんな母親の関係をブラインドを使って時間経過とともに表現する斬新な演出が目を引きました。参加発表作品の「GUMGNAM STYLE? AUE STYLE!」は、より自由にダンスの楽しさを全身で表現した作品。コミカルな動きに、観客から手拍子が起こりました。



この日は、学生や教員、附属高校のダンス部の生徒などが見学して、アンケートに回答。同部員が、「皆さんの回答を参考に、大会までの時間に、作品をよりよくしていきたい」と大会への意気込みを語ると、見学者から激励の拍手が起こりました。

同部は創部4年目で、全国大会出場は昨年に続く2回目となります。

オープンキャンパス 2013(7/27、28)



高校生を対象にした「オープンキャンパス」が7月27日(土)、28日(日)に開催され、大学概要、各選修・専攻・コースの説明、模擬授業、施設見学などの大学紹介が行われました。来場者は2日間で計4,777人と、最多記録を更新しました。

両日も午前9時の受け付け開始の前から、続々と高校生や保護者が来場。今年は昨年までの講堂での全

体説明会に代わって、午前 10 時から学長あいさつ、各選修・専攻・コースの説明が同時にスタート。それぞれ開催回数を増やすなどして、参加者がいくつもの説明会に参加できるように配慮するなどして、混雑の緩和を図った結果、スムーズな流れとなりました。

松田正久学長はあいさつで「教員養成を軸に、教養教育を重視する大学。教員になりたい人、専門的に学びたい人、それぞれ学生サポートをしっかりとしています。ぜひ本学に入学して、夢をかなえてください」などと呼び掛けました。27 日には、卒業生で昨年ロンドンオリンピックに出場した中野弘幸さんも飛び入りして、「この大学で自



分の頭で考えることができるようになり、五輪出場の夢を果たすことができました。何でも当たり前と思うのではなく、疑問を持って考えて自分なりの方法が見つかるはず。ぜひ愛教大で学んでください」と、自身が研究した「早く走るコツ」を紹介しながら、本学をアピール。

各選修・専攻の説明では、教員・学生が学びについて、年間の行事、クラブ活動や海外留学の体験などを説明し、参加者がメモをとる姿も。模擬授業では学生による実演などが行われ、大学の授業を身近に感じた様子でした。

また、今年は生協学生委員ら学生による説明や施設見学、相談コーナーに人気が集まり、大学を学生自らがPRする様子をNHKが取材し、7月30日（火）午後6時10分からの番組で本学のオープンキャンパスの取り組みが放送されました。



ガラス作品展(7/27-8/1)



造形文化コースでガラス工芸を専攻する学生による「ガラス作品展」が7月27日（土）～8月1日（木）、附属図書館アイ・スペースで行われました。

展示されたのは、オブジェ、花瓶、グラスなど前期に制作した約 20 作品。

朝顔の花のような明るい色調の造形作品、円錐形のガラスを連続して立体にしたオブジェ、細かな花模様を施した花入れやワイングラスなど多彩な作品を紹介。

27 日、28 日はオープンキャンパスでもあり、多くの見学者が来場。ユニークなガラス作品を楽しんでいました。



愛教人インタビュー

松本昭彦教授が「第 60 回全日肖展」衆議院議長賞受賞



本学の松本昭彦教授（美術教育）が肖像画の展覧会「第 60 回全日肖展」（全日本肖像美術協会主催）で衆議院議長賞を受賞しました。受賞の喜びや作品制作への思いについて聞きました。

* * *

—受賞おめでとうございます。昨年、一昨年は絵本やイラストで受賞されていますが、今回は肖像画での受賞ですね。

絵本とかけ持ちですが、絵本をやっていると、精神的にハードなこ

ともあって、精神的には楽なリアルな肖像画をやりたくなります。今回は時間がなかったので30号(90cm×60cm)を油彩です。質感・重量のあるものを描きたいと思いました。最初は写真を撮って、何枚か合成して、足し算、かけ算して、あとは迷わず描いていきます。絵本は大胆に描いていきますが、肖像画は手間がかかって1日で進む量はわずか。描いていて苦しむけど、うまくいったことは人に伝えたいと思うでしょ。学生にそれを伝えたいです。ずっと描いているのもいいんですが、教えなくなったり、描きなくなったり。人間は一所(ひとところ)におれないんですよ。

一なるほど、一所にいないことが制作、教育、研究のそれぞれのモチベーションになっていくんですね。さて、今回のタイトルは「おやつ作りの時間」。絵本作りでコンビを組んでいた大学院生のキム・ユリさんをモデルに、制作の合間に趣味のお菓子作りで一息している場面。肖像画としては珍しいシチュエーションですね。

普通の人が描かないものかと思う、人物+静物画で肖像画を描く作戦でいきました。透明感と重量感を大切に、叩けば(描いた)テーブルやガラスの音が聞こえてきそうなほどリアルに表現してみました。資料写真を組み立てて、肖像画を作る。合成することで、光の当て方、画面での色の飛ばし方(配色の仕方)、モチーフなどを考えます。光源についても、意識の有無で描くものが相当違って来ます。光によって質感が表せるからです。スナップ写真を撮ってそのまま描くのはアマチュアですから。

一この作品の制作期間はどのぐらいですか。

今年4月~6月半ばで、約2カ月半です。写真撮影からだとも3カ月ほど。

一全日肖展ではすでに参与クラスとのことで、これまでも内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞を受賞されていて、今回が上位4賞のうちの三つ目ですね。

残るは参議院議長賞。4賞とった人はまだいないので、来年あたりとれたらいいなと思っています。

一そんな先生のその元気の源はどこから生まれて来るのか、ぜひ教えていただきたいです。

よく寝ること、食べることかな。体調管理には気をつけています。若いころは無理しても平気でしたが、今は…。健康が大切だと思うので、無駄な時間をつくらずに、夜更かしせずに早く寝ることにしています。あとは、あきらめないこと、ですね。

*

(写真は上から、①賞状を手にする松本教授、②受賞作品、③作品の場面になった研究室で)
(インタビュー：秘書広報課 小林則子)



お知らせ・報告・投稿

平成26年度派遣留学説明会(報告)

国際交流センターは、7月10日(水)午後1時から大学会館2階・中集会室で、2014年度派遣留学説明会を実施しました。

この説明会は、来年度派遣留学を希望する学生を対象としたもので、派遣留学についての最新の生の情報を提供するとともに、応募する際の必要な手続きを説明しました。

はじめに、宮川秀俊国際交流センター長のあいさつ



編集後記

今年のオープンキャンパスは2日間とも晴天に恵まれて、朝から多くの高校生や保護者が詰めかけ、過去最高の参加人数を記録。本学の良さをアピールしようと、教職員や学生が協力して駅やバス停での誘導、説明や案内に奮闘しました。中でも今年、大活躍したのが生協学生委員たち。彼らが案内するキャンパスツアーには両日で700人以上が参加。「自分たちの言葉」での案内は大好評で、来場者には一番印象に残ったかもしれません。抜群のPR効果が期待できて、「愛教大広報賞」をあげたいぐらい、よく頑張ってくれました。(K)

〈お知らせ〉

次号「AUE News 第67号」は、夏季一斉休業のため、9月1日付発行とさせていただきます。

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二